

田中王堂著作目録

松田 義男 編
改訂 2018年 6月 15日
2004年 11月 3日

目次

1. 著書
2. 編
3. 論文等
4. 評論集初出

凡例

*王堂田中喜一(1867~1932)の著作を「1. 著者」、「2. 論文等」、に大別し、それぞれ年次順に配列し、参考として「3. 評論集初出」を付した。

*原本未確認の著作については*を付した。

*連載は、初回掲載に一括した。

*雑誌目次中の表題と本文表題とが異なる場合、原則として後者を採用した。

*新聞・雑誌の特集名・掲載欄を適宜[]で示したほか、無題の場合は[]に示して仮題とした。

*掲載雑誌の巻号数は、第1巻第1号→1・1と表記し、日刊新聞の号数は省略した。

*その他、編者の注記は適宜[]で示した。

本著作目録作成にあたっては、国立国会図書館、日本近代文学館、早稲田大学中央図書館・同現代政治経済研究所、岡山大学付属図書館、種智院大学図書館、県立長野図書館より資料調査・閲覧の便宜を得ました。付記して謝意を表します。

1. 著書

- 『書齋より街頭に』 広文堂書店、1911年5月5日
- 『二宮尊徳の新研究』 広文堂書店、1911年9月10日
- 『哲人主義』 広文堂書店、1912年4月5日
- 『吾が非哲学』 敬文館、1913年12月25日
- 『解放の信条』 栄文館書店、1914年1月13日
- 『王堂論集』 <現代評論選集 1> 新潮社、1915年3月18日 [既刊単行書から12篇を収録]
- 『改造の試み』 新潮社、1915年10月24日
- 『福沢諭吉』 実業之世界社、1915年12月17日 [第4章「福沢の文章」を『論集・福沢諭吉への視点』(りせい書房、1973年)、同書改題『論集福沢諭吉』<平凡社ライブラリー 855>(平凡社、2017年)収録]
- 『卿等のために代言す』 広文堂書店、1917年6月15日
- 『徹底個人主義』 天佑社、1918年9月28日
- 『国民哲学の建設』 天佑社、1919年8月2日
- 『最高芸術の大星小星』 天佑社、1920年10月25日
- 『創造と享樂』 天佑社、1921年12月18日
- 『救は反省より』 実業之日本社、1923年2月10日
- 『象徴主義の文化へ』 博文館、1924年12月10日
- 『改釈の哲学』 聚芳閣、1925年5月20日
- 『現代文化の本質』 東洋経済新報社出版部、1929年2月8日
- 『王堂選集 第1冊 徹底個人主義』 関書院、1948年12月1日 [1909年～1930年の評論15篇を収録。『徹底個人主義』の再刊ではない]
- 『王堂選集 第3冊 ヒューマニスト二宮尊徳』 関書院、1948年12月20日 [『二宮尊徳の新研究』を改題して収録]
- 『王堂選集 第2冊 福沢諭吉』 関書院、1949年1月1日 [『福沢諭吉』と「評論家としての福沢諭吉」(『中央公論』28-12、10月1日)を収録]
- 『王堂選集 第4冊 西哲群像』 関書院、1949年3月10日 [『最高芸術の大星小星』から10篇を収録]
- 『田中王堂著作集』 全6巻<學術著作集ライブラリー> 学術出版会、2010年11月25日
- 第1巻 『哲学・倫理・科学は何のために』 [以下、『著作集1』と略記]
- 第2巻 『生活と知識・学問』 [以下、『著作集2』と略記]
- 第3巻 『個人こそ社会・政治の原点』 [以下、『著作集3』と略記]
- 第4巻 『文明の進歩、社会の改造』 [以下、『著作集4』と略記]
- 第5巻 『文芸の目標』 [以下、『著作集5』と略記]
- 第6巻 『宗教の存在価値、文化主義の問題点』 [以下、『著作集6』と略記]

2. 編

<海外芸術評論叢書 全9篇>聚芳閣、1925-26年[土田杏村と共編]

スピンガーン(遠藤貞吉訳)『創造的批評論 天才と趣味との同一性を論ずる諸論文』<海外芸術評論叢書 1> 聚芳閣、1925年9月25日

トロツキイ(武藤直治訳)『無産者文化論』<海外芸術評論叢書 2> 聚芳閣、1925年10月18日

キリアム・モリス(大槻憲二訳)『芸術のための希望と不安』<海外芸術評論叢書 3> 聚芳閣、1925年12月5日

バルビュウス(青野季吉訳)『バルビュウス論抄 知識階級及び文学者の社会的任務』<海外芸術評論叢書 4> 聚芳閣学芸部、1926年6月5日

エドワード・カァペンター(宇佐美文蔵訳)『創造の芸術』<海外芸術評論叢書 5> 聚芳閣学芸部、1926年6月7日

ロオリッヒ(竹内逸訳)『美と慧知の生活 住心地よき国への純真なる念願』<海外芸術評論叢書 6> 聚芳閣学術部、1926年6月22日

フランシス・グリーアスン(遠藤貞吉訳)『近代神秘思想 附・ケルト気質及諸論文』<海外芸術評論叢書 7>聚芳閣学術部、1926年6月5日

ツウルゲーニエフ(宮原晃一郎訳)『文学的回想 文学及び生活の回想に関する諸論文』<海外芸術評論叢書 8> 聚芳閣学芸部、1926年6月15日

ヒュネカア(芥川潤訳)『エゴイスト 近代仏蘭西文学一考察』<海外芸術評論叢書 9>聚芳閣、1926年6月30日

3. 論文等<252 篇>

1897(明治 30)年

思想と行為の関係を論ず『宗教』73、11月5日

1898(明治 31)年

習慣の本性を論じて各種の抽象的見解に及ぶ(一)『宗教』75、1月15日

建設と破壊は果して二作用なりや『六合雑誌』209、5月25日

王陽明の知行合一説を論ず[「論説」]『早稲田学報』17、7月31日

1899(明治 32)年

新個人主義を論じて其教育的概念に及ぶ[「論説」]『太陽』5-6、3月20日

理想論『日本教育』6、7、4月11、24日

専攻と修養と『六合雑誌』228、12月15日

1900(明治 33)年

人間活動の統一的原理の一側面として宗教的意識の進化を語る『哲学雑誌』158、4月[10日]

美意識の研究『哲学雑誌』160、162、165、6月10日、8月10日、11月10日

英雄の教育的価値[「特別寄書」]『六合雑誌』240、12月15日

時代精神とは何ぞや『丁酉倫理会講演集』5、12月21日[『哲人主義』『著作集4』収録]

1901(明治 34)年

教育の理想として『ローマンチズム』及び『クラシズム』を論ず『教育学術界』2-3~5、1月1日、2月3日、3月3日[『哲人主義』収録]

人格養成の方便として実業教育の意義を論ず『児童研究』4-8、12月3日[『東京専門学校文学教育科第一回第一学年講義録雑録及雑報』(早稲田大学出版部、1903年)、『解放の信条』収録]

活動的一元論と『統一年有半』『哲学雑誌』178、12月10日

1902(明治 35)年

教育の理想として現時の修養主義を排す『教育界』1-8、9、6月3日、7月3日

1904(明治 37)年

先づ吾人をして大理論の国民たらしめよ『中央公論』19-1、2月1日

姉崎正治君著『復活の曙光』を読む『丁酉倫理会倫理講演集』18、3月15日
学者の本領を論ず『中央公論』19-3、4月1日[『哲人主義』『著作集2』収録]

1905(明治38)年

結婚式の改良『家庭之友』3-2、5月3日

1906(明治39)年

桑木博士の「プラグマティズムに就て」を読む『哲学雑誌』232、236、6月10日、10月10日

[『現代読書法』『成功』10-1、9月10日

桑木博士の答弁の価値を論ず『哲学雑誌』238、12月10日

1907(明治40)年

故高山林次郎君の天才に就て『中央公論』22-6、6月1日[花澤哲文編『高山樗牛研究資料集成 第7巻 随想・研究・論文集』(クレス出版、2014年)収録]

青年と愛国心『成蹊』4、12月13日<印刷不良のため、『成蹊』5、6、1908年1月3、30日に再録>

1908(明治41)年

教育と小説[談「文芸」]『太陽』14-1、1月1日

国運と文芸[談話筆記]『明星』申歳1、1月1日

象徴主義の心理、論理、及び倫理『哲学雑誌』251、1月10日[『解放の信条』『著作集5』収録]

夏目漱石氏の『文芸の哲学的基礎』を評す『明星』申歳2、3、2月1日、3月1日[『書齋より街頭に』『著作集5』収録、『現代日本文学大系 96 文芸評論集』(筑摩書房、1973年)抄録]

文芸論二則『中央公論』23-5、5月1日

芸術の真『中央公論』23-6、6月1日[『改造の試み』『著作集5』収録]

*青年諸氏の為めに理想の意義を論ず『青年評論』7月[『書齋より街頭に』『王堂論集』『著作集1』収録]

我国に於ける自然主義を論ず『明星』申歳8[夏季号付録]、8月10日

我が国民性の立場よりクラツシズムの意義を論ず『新小説』13-9、10、9月1日、10月1日[『解放の信条』『著作集4』収録]

1909(明治42)年

物質的精神的とは何ぞや[『毎日文壇』]『東京毎日新聞』1月12日

具体的理想主義は如何に現代の道徳を理解するか『文章世界』4-1、1月15日[『実験理想主義は如何に現代の道徳を理解するか』と改題『哲人主義』『著作集1』収録]

文芸に於ける具体理想主義『趣味』4-5、5月1日

近世文壇に於ける評論の価値『新小説』14-5、5月1日[『書齋より街頭に』『著作集5』収録]
東西文明融合の意義及び経過を論ず『丁酉倫理会倫理講演集』81、6月10日[『書齋より街頭に』収録]
表象主義[「東京版」]『読売新聞』6月12日
謬れる常識主義を排す『丁酉倫理会倫理講演集』83、7月15日
倫理思想の革新[談]『読売新聞』7月27、28日
宗教に対する予の態度『文章世界』4-11、8月15日[『哲人主義』『著作集6』収録]
文芸に於ける哲人主義『新声』20-8、9月1日
岩野泡鳴氏の人生観及び芸術観を論ず『中央公論』24-9、9月1日[『哲人主義』、『最高芸術の大星小星』
収録]
哲人主義『無尽燈』14-11、11月5日
公準[「日曜付録」]『読売新聞』11月21日[『書齋より街頭に』、『王堂選集 第1冊 徹底個人主義』『著
作集5』収録]
生活の価値生活の意義『新小説』14-12、12月1日[『書齋より街頭に』、『著作集5』収録。上田博・田
口道昭著『啄木評論の世界』<世界思想ゼミナール>(世界思想社、1991年5月10日)抄録]
文芸に基ける人生批評の価[「日曜付録」]『読売新聞』12月5、12日
自由思想家の倫理観[「講演」]『丁酉倫理会倫理講演集』88、12月10日[『書齋より街頭に』『著作集1』
収録]
プラグマティズムと教育『読売新聞』12月15～17日
プラグマティズムと教育(補遺)『読売新聞』12月25日

1910(明治43)年

哲人主義の文芸[「論説 文芸革新の意義如何」]『太陽』16-1、1月1日
現代思想の特徴『新潮』12-2、2月1日
矛盾せる教育思想[「論説」]『帝国教育』331、2月10日[『書齋より街頭に』収録]
女子教育雑感[「講演」]『丁酉倫理会倫理講演集』90、2月10日
高工受験者の英語『中学世界』13-4、3月20日
舞台の上の現実といふ意味に就て[「日曜付録」]『読売新聞』3月27日
喧嘩両成敗[中央公論社主催文芸保護問題演説会(3月13日)速記「文芸保護問題」]『中央公論』25-4、4
月1日
国民性の意義と価値とを誤解する勿れ『東亜之光』5-4、4月1日[『哲人主義』『著作集4』収録]
嗚呼小なる哉芸術万能の人[「日曜付録」]『読売新聞』4月17日
道德経験に於ける情的評価の作用及び制限[「講演」]『丁酉倫理会倫理講演集』93、5月10日[『書齋よ
り街頭に』『著作集1』収録]
ジョージ・サンタヤナとアーサー・シモンズ[「日曜付録」]『読売新聞』5月22日[『哲人主義』、『最高芸
術の大星小星』、『王堂選集 第4冊 西哲群像』収録]

*反省の経過を語る『新文芸』4、5月[『哲人主義』収録]

人生評論の意義と人生評論家の資格『中央公論』25-7、7月1日

文明史上に於けるロマンチズムの意義『哲学雑誌』281、7月10日[『書齋より街頭に』『著作集4』収録]

近世思想とフリードリヒ・リストの経済学説[「日曜付録」]『読売新聞』7月31日[『哲人主義』収録]

ニーチェの『ザラツストラ』を論ず[「思潮」]『新小説』15-9、9月1日[『書齋より街頭に』、『王堂論集』、『最高芸術の大星小星』、『王堂選集 第4冊 西哲群像』収録]

New philosophic Radicalism『中央公論』25-9、9月1日[『解放の信条』『著作集1』収録]

哲学の将来『読売新聞』10月10日[『書齋より街頭に』、『王堂論集』、『王堂選集 第1冊 徹底個人主義』『著作集1』収録]

美術としての政治[「日曜付録」]『読売新聞』10月23日

セオドル・ルウスヴェルト氏の道徳観及び政治観を論ず『中央公論』25-12、12月1日[『書齋より街頭に』収録]

1911(明治44)年

評論は創作なり[「文芸」]『時事新報』2月2～4日

故教授ウキリアム、ジェームス氏を追憶す[「日曜付録」]『読売新聞』2月26日[『哲人主義』、『王堂論集』収録]

空虚なる修養論『実業之横浜』8-7、8、4月1、15日

トルストイの絶対主義を論ず[「講演」]『丁西倫理会倫理講演集』106、6月10日[『哲人主義』、『最高芸術の大星小星』、『王堂選集 第4冊 西哲群像』収録]

印象主義より象徴主義へ[「日曜付録」]『読売新聞』6月18日[『哲人主義』収録]

文芸の小化『東洋時論』2-7、7月1日[『哲人主義』、『王堂論集』、『著作集5』収録]

誤られたる二宮尊徳[談]『東洋時論』2-8、8月1日

主張を拡充せよ[「当来の文芸」]『国民新聞』8月12、13日[「当来の文芸」と改題]『解放の信条』、齊藤清衛編『集成文学概論』(明治書院、1927年)、『現代日本文学大系 96 文芸評論集』(筑摩書房、1973年)、『著作集5』収録]

現代の倫理学は如何に性欲を理解するか『新公論』26-9、9月1日[『性欲の調節』(国民書院、1919年8月20日)、『性と生殖の人権問題資料集成 第30巻』(不二出版、2000年)抄録]

自己開放の事業の実現された時代[「現代生活の意義」]『新潮』15-3、9月1日[「現代生活の意義」と改題]『哲人主義』、『著作集2』収録]

わが修養論[「講演」]『丁西倫理会倫理講演集』109、9月10日[『哲人主義』収録]

1912(明治45・大正元)年

倫理上の自然主義『文章世界』7-2、2月1日

プラグマティズムの後『哲学雑誌』300、2月10日[『解放の信条』、『王堂論集』、『著作集1』収録]

お転婆を矯正する方法如何『婦人画報』68、4月1日[「外国のお転婆と日本のお転婆」と題して、石川喜美子編『当代名家百人の観たる女』(日本書院、1918年10月24日)収録]

知識と信仰『東洋時論』3-5、5月1日

人生批評の二種類[「日曜付録」]『読売新聞』5月26日[『解放の信条』『著作集2』収録]

倫理思想解放の要求『東洋時論』3-7、7月1日

批評の性質及び資格に就いて[「批評論」]『新潮』17-2、8月1日

婦人解放の第一人『淑女かゝみ』10、9月1日

婦人解放の第一人『婦人評論』1-1、9月1日

国運と文芸『秀才文壇』12-11、10月1日

[「名家の読書時間」]『読書之友』1-7、11月1日

処世の道[談]『松陽新報』11月14日

人心の不安『実業之世界』9-23、12月1日

処世の道『帝国評論』69、12月3日

1913(大正2)年

新時代の人生観『無名通信』5-4、4月1日

信仰の意義と二種の信仰『現代名家信仰の告白』林碩次編、東京崇文館、5月26日[改題再刊：林有隣編『名士の信仰 修養訓話』(キング書房出版部、1924年)収録]

新生活即新信仰『国家及国家学』1-10、10月1日[『解放の信条』『王堂論集』『著作集6』収録]

評論家としての福沢諭吉『中央公論』28-12、10月1日[『吾が非哲学』『最高芸術の大星小星』『王堂選集 第2冊 福沢諭吉』収録]

知識と信仰[「講演」]『丁酉倫理会倫理講演集』134、10月10日[『解放の信条』『著作集6』収録]

功利の人、基督『哲学雑誌』320、10月10日[『吾が非哲学』から転載。『王堂論集』、『最高芸術の大星小星』、『王堂選集 第4冊 西哲群像』収録]

1914(大正3)年

権威の淵源『新修養』5-2、2月1日

信仰の合理性[「文芸時論」]『新日本』4-6、5月1日[『改造の試み』『著作集6』収録]

信仰の進化『中央公論』29-5、5月1日

ゼームスの学説と具体理想論『中外日報』8月17～19日

文芸家諸氏のために科学の意義を講ず『早稲田文学』106、9月1日[『改造の試み』『著作集5』収録]

時局と独立の生活『松陽新報』10月14日

刻下の戦乱と我国の思潮『文章世界』9-12、11月1日

権威の進化『丁酉倫理会倫理講演集』147、11月10日[『改造の試み』、『現代文化の本質』収録]

1915(大正 4)年

パースペクティブなき学风『早稲田文学』111、2月1日[『改造の試み』、『王堂選集 第1冊 徹底個人主義』『著作集2』収録]

理知の人と情意の人『中外日報』2月3～5日

文芸家と政治運動『中央公論』30-3、3月1日[『改造の試み』収録]

福沢諭吉氏を憶ふ『中外日報』3月4～6日

功利の貯蔵としてのロオマンズ『中央公論』30-4、4月1日[『改造の試み』、『現代文化の本質』『著作集1』収録]

タゴール流行に就ての一観察[「文芸」]『時事新報』4月22～24日[清沢巖編『名士のタゴール観』(城南社、1915年)、『改造の試み』収録]

自由思想の精神『中外日報』4月25、27、28日

予が国民主義の主張『中央公論』30-6、6月1日[「予が帝国主義の主張」と改題『改造の試み』『著作集3』収録]

争闘の進化[文責在記者]『第三帝国』43、6月15日

新非戦論 争闘解決法の進化『中外日報』6月29、30日、7月1～3日

自己超越主義の不合理『新潮』23-1、7月1日[『改造の試み』収録]

平塚らいてふ氏に与へて氏の婦人観を論ず『中央公論』30-8、7月15日[『改造の試み』収録]

老大事業家等の道徳観『太陽』21-10、8月1日[『卿等のために代言す』収録]

[「零碎なる時間を如何に利用しつゝあるか」]『婦人之友』9-8、8月1日

不徹底の一徴候『廿世紀』2-9、9月1日[『改造の試み』収録]

解放者、ウキリアム・ジエムス『早稲田文学』118、9月1日[『卿等のために代言す』、『最高芸術の大星小星』、『王堂選集 第4冊 西哲群像』収録]

物質的より精神的へ『中外日報』10月31日、11月2日

物質的と精神的『科学と文芸』1-3、11月1日

序『愛の争闘』岩野清著、米倉書房出版部、11月3日

現代生活を指導する哲学『中外日報』11月9日

1916(大正 5)年

証拠の二三『時事新報』4月25、26、28、29日、5月2、3日[「卓越性に対する没鑑識」と題して、『土田杏村とその時代』3、1966年6月10日に抄録]

エマソンの現実主義『三田文学』7-5、5月1日[『卿等のために代言す』、『最高芸術の大星小星』、『王堂選集 第4冊 西哲群像』収録]

タゴール氏に与へて氏の日本観を論ず『中央公論』31-1、7月1日[『卿等のために代言す』、『最高芸術の大星小星』収録、「近世生活と西洋文明」と題して、高須芳次郎編『名文鑑賞読本.大正時代』(厚生閣、1937年)抄録]

[「崑山氏の西遊に対する希望」]『日本評論』16、8月1日

罪の心理及倫理[談]『科学と文芸』2-9、9月1日

タゴールは来た、さうして去つた『新公論』31-10、10月1日

将来の文明[「戦後文明の研究」]『日本評論』18、10月1日[「文明の将来」と改題『卿等のために代言す』
『著作集4』収録]

衝動と思想『早稲田文学』132、11月1日[『卿等のために代言す』『王堂選集 第1冊 徹底個人主義』
『著作集5』収録]

政治意識の深化、醇化『新公論』31-12、12月1日[『卿等のために代言す』『著作集3』収録]

1917(大正6)年

米国の女流飛行家 スチムソン嬢へー日本の哲学者より『時事新報』1月1~3、5日[「スチムソン嬢へ」
と改題『卿等のために代言す』『最高芸術の大星小星』収録]

現代生活に於ける科学の意義を論ず『新公論』32-1、1月1日[『卿等のために代言す』『著作集1』収
録]

罪の倫理『新日本』7-1、1月1日[『卿等のために代言す』収録]

国民教育の改造を要す『教育実験界』38-2、2月1日

[「年賀状から」]『第三帝国』81、2月1日

徳富蘇峰論[次号まで掲載延期の断書]『新日本』7-4、4月1日

科学の真と道徳の真『東京』1-4、4月1日[『卿等のために代言す』、『王堂選集 第1冊 徹底個人主義』、
『著作集1』収録]

三つの妄説—精神文明、哲人政治、帝国主義—『経済時論』1-5、5月1日

代表と卓越『新公論』32-5、5月1日[『徹底個人主義』、『現代文化の本質』、『王堂選集 第1冊 徹底個
人主義』『著作集3』収録]

評論家としての徳富蘇峰『新日本』7-5、5月1日

教育の作用と制限『教育実験界』38-6、6月1日

省察二三『早稲田文学』139、6月1日[「省察」と改題、『徹底個人主義』、『王堂選集 第1冊 徹底個人主
義』収録]

自然生活に対する憧憬の心理、倫理『中央公論』32-8、7月15日[『徹底個人主義』収録]

現代に於ける人類解放の三使徒『中央公論』32-10、9月1日

近世生活に於ける知識と智慧[「説苑」]『新日本』7-11、10月1日[『徹底個人主義』、『現代文化の本質』、
『王堂選集 第1冊 徹底個人主義』『著作集2』収録]

欲望の理想化、法律化『法治国』35、10月10日[『徹底個人主義』収録]

我日本をして産業国たらしめる第一歩『中央公論』32-12、11月1日[「工業教育の自由化」と改題、『徹
底個人主義』、今井清一編『大正思想集1』<近代日本思想大系 33>(筑摩書房、1978年)収録]

1918(大正7)年

『自分こそ祖先である』新時代の青年に対して大ナポレオンの揚言を薦む[「新時代の青年 先進諸家の現

代青年に対する忌憚なき批評』『大阪毎日新聞』1月1日
学問の独立の意義と範囲と順序とを論ず『中央公論』33-1、1月1日[『徹底個人主義』『著作集 2』収録]
位置の理會と資本の運用を欠ける日本『中外』2-1、1月1日
西田博士の哲学思索の特徴と価値とを論ず『中外』2-4、4月1日[『中外』2-5、4月10日にも掲載。『著作集 1』収録]
民主主義と個人主義[「民本主義思想の研究」]『文章世界』13-4、4月1日[『徹底個人主義』、太田雅夫編『資料大正デモクラシー論争史 上巻』(新泉社、1971年)、『著作集 3』収録]
哲学に興味を有する人々へ『時事新報』4月11～13日
徹底個人主義は個人と国家との関係を如何に理會するか[「外来思想と国家との調和問題」]『大観』1-2、6月1日[「徹底個人主義」と改題『徹底個人主義』、『王堂選集 第1冊 徹底個人主義』『著作集 3』収録]
更に西田博士の学説の本体に肉薄す『中外』2-7、6月1日[『著作集 1』収録]
秘密の倫理『中央公論』33-8、7月15日[『国民哲学の建設』『著作集 1』収録]
わが評論界はたゞ一事を欠く『中外』2-11、10月1日[『国民哲学の建設』『著作集 3』収録]
ロマンチズムの文明史的解釈『教育学术界』38-3、12月1日
ロマンチズムの文明史的解釈『青年雄弁』3-12、12月1日

1919(大正 8)年

科学に含まれたる志向の發揮[「新文明の基礎たるべき新思想」]『新時代』3-1、1月1日
徹底個人主義者の東西文明融合観『中外』3-1、1月1日[『国民哲学の建設』『現代文化の本質』『著作集 3』収録]
*神秘主義の心理倫理『信州』1-1、2月1日<県立長野図書館所蔵>
考察と批評[「松井須磨子の死について」]『早稲田文学』159、2月1日
差別待遇を撤廃するの議が否決されたりとは真か[「国際連盟と人種の差別撤廃」]『中外』3-3、3月1日
哲人主義の意義に就いて『大観』2-4、4月1日[『国民哲学の建設』『著作集 3』収録]
デモクラシイと芸術『早稲田文学』162、5月1日[『新思想の解剖 第二』(教文社、1922年)、『国民哲学の建設』収録]
神秘主義の心理倫理『大観』2-6、6月1日[『国民哲学の建設』『著作集 6』収録]
ヒューマン主義の科学観『雄弁』10-7、6月1日[『国民哲学の建設』『現代文化の本質』『王堂選集 第1冊 徹底個人主義』『著作集 1』収録]
民本主義と個人主義『筆は劍より強し 名家文選』横田千茂登編、東京書房、7月23日
我が同胞が自由討議を欠ける一適例[「喫煙室」]『雄弁』10-9、8月1日
*政治は哲学なり『大阪新報』10月6日
社会と個人(徹底民主主義について)『婦人画報』166、12月1日

1920(大正 9)年

- 生活改造に対する哲学研究者の貢献『東方時論』5-2、2月1日
- 杉森孝次郎氏の『人類の再生』を評す『東方時論』5-3、3月1日
- バートランド・ラッセルの衝動論、信仰論『東洋経済新報』898~900、5月29日、6月5、12日[『最高芸術の大星小星』『王堂選集 第4冊 西哲群像』収録]
- 徹底個人主義者の社会生活観『中央公論』35-8、7月1日[『創造と享楽』『著作集3』収録]
- 近時流行の改造説を評す[講演筆記]『朝鮮及満洲』157、7月1日
- 宗教と科学と芸術と『大本教の解剖 学理的厳正批判』中村古峽著、日本精神医学会、8月5日
- 享楽主義の倫理『解放』2-9、9月1日[『創造と享楽』、『現代文化の本質』収録]
- わたくしの生活信条『婦人公論』5-9、9月1日
- 刻下の世運に対する哲学の使命『中央公論』35-12、11月1日[『創造と享楽』『著作集1』『新思想の解剖 第一』(教文社、1922年)収録]

1921(大正 10)年

- 宗教の発生的、作用的考察『大観』4-1、1月1日[『創造と享楽』『著作集6』収録]
- 徹底自然主義[「一九二一年の問題」]『東方時論』6-1、1月1日
- 生活の芸術化『婦人之友』15-1、1月1日[『創造と享楽』収録]
- 女学生の間における好奇心の選択と醇化『婦人之友』15-6、6月1日[『創造と享楽』収録]
- 教権の流動化『創造者の道』神道久三編<オーロラ協会講演第一輯>創生社、6月10日
- ジョン・デユウエイの哲学[「現代八大哲学者と其思想」]『改造』3-7、7月1日[『創造と享楽』収録]
- 補角としての都市生活と田園生活『中央公論』36-8、7月15日
- 享楽と創造と所有『中外』4-2、8月1日[『創造と享楽』収録]
- *デモクラシイの極致としての人才主義『野依雑誌』1-4、8月1日[『創造と享楽』収録]
- わたくしの科学観『科学知識』1-3、9月1日
- 考へる人と見る人『東方時論』6-9、9月1日[『創造と享楽』収録]
- 結婚問題の解決に関して閉却されたる一考察『婦人之友』15-11、11月1日
- 現下に於ける神話化の源流を究明す『中央公論』36-13、12月1日[『救は反省より』『現代文化の本質』『著作集6』収録]

1922(大正 11)年

- 結婚生活に於ける我等二人『婦人之友』16-1、1月1日
- 謂ふところの信仰の復活に就いて[「現代の宗教的傾向についての批判」]『早稲田文学』194、1月1日
- 文化機関としての婦人雑誌を論ず『婦人公論』7-2、2月1日
- 徹底個人主義『野依雑誌』2-3、2月5日

徹底個人主義者の恋愛観・結婚観『中央公論』37-4、4月1日[『救は反省より』『現代文化の本質』『著作集3』収録]

「新生」といふことの意義に就て『婦人画報』196、4月1日[『改積の哲学』収録]

現下流行の宗教文学に鑑みて信仰隆盛の機能と志向と意義とを論ず『中央公論』37-6、6月1日[『救は反省より』『著作集6』収録]

デモクラシーの極致としての哲人主義『婦人公論』8-6、6月1日[『文芸哲学講座 第1輯』(小西書店、1923年2月25日)、『改積の哲学』『現代文化の本質』『著作集3』収録]

世界平和の理想に因みて諸家の文化主義を検討す『中央公論』37-8、9、7月15日、8月1日[「諸家の文化主義を検討す」と改題『救は反省より』『著作集6』収録]

ロオマンズ時代に於ける恋愛の意義と帰趨『婦人公論』7-11、10月1日[『文芸哲学講座 第5輯 王堂女性観』(小西書店、1923年11月25日)、『改積の哲学』収録]

1923(大正12)年

科学の道徳化、生活化『中央公論』38-1、1月1日[『象徴主義の文化へ』『著作集1』収録]

新たに家庭生活に入らんとする某氏夫妻へ『婦人之友』17-3、3月1日

卓越性の創造と鑑識とを論ず『中央公論』38-4、4月1日[『象徴主義の文化へ』収録]

若き女性の為めに覚醒の意義を講ず『婦人公論』8-6、6月1日[『文芸哲学講座 第5輯 王堂女性観』(小西書店、1923年11月25日)、『改積の哲学』『著作集3』収録]

知識の時代相、永遠性『中央公論』38-7、6月15日[『象徴主義の文化へ』『著作集2』収録]

現代批評の原理としての哲人主義『中央公論』38-10、9月1日[『象徴主義の文化へ』『著作集3』収録]

恋愛の真意義『表現』3-9、9月1日[後藤亮一編『哲人文豪と恋愛観』(表現社、1923年11月20日)、復刊(近代文芸社、1926年10月25日)、後藤亮一編『近代恋愛大観』(三水社、1927年)収録]

生活原理の極致としての合議主義『中央公論』38-13、12月1日[『象徴主義の文化へ』『著作集3』収録]

1924(大正13)年

わが同胞のために転禍為福の根本策を唱説す『中央公論』39-1、1月1日[『象徴主義の文化へ』『著作集4』収録]

「汝自らを知れ」を復興計画の標語とせよ『都新聞』1月1~3日

一自由思想家の生活信条『中央公論』39-4、4月1日[『象徴主義の文化へ』『著作集2』収録]

女学校の業を卒へて専門学校に入りし某嬢へ[「若き人々におくる言葉』』『婦人之友』18-5、5月1日

『超克』を讀みて[「学芸』』『東京朝日新聞』5月27、28日[『改積の哲学』収録]

若き女性のために研学の精神と態度とを構ず『婦人公論』9-7、7月1日[『改積の哲学』収録]

金聖歎の文章[「学芸 探してゐるもの』』『東京朝日新聞』8月24日

遙かにタゴオル氏に寄せて亜細亜同盟の思想を論ず『中央公論』39-11、11月1日[『改積の哲学』収録]

1925(大正 14)年

当来文明の基調たるべき改積の精神を究明す『中央公論』40-2、2月1日[『改積の哲学』『著作集 4』収録]

某大学を卒業する女性に与へてカルチュアを論ずるの書『婦人公論』10-5、5月1日[『改積の哲学』収録]

究極文明の行程の中に知識の民衆化と志向と様式とを考察す『中央公論』40-7、6月15日

一文明史家としてわが国に於けるジャァナリズムの特徴と傾向とを考察す『中央公論』40-10、9月1日[『現代文化の本質』収録]

1926(大正 15・昭和元)年

女流飛行家スチンソン嬢へ[「新選女子読本」]『婦人公論』11-4、4月1日[『卿等のために代言す』から転載]

哲人田中王堂氏と『日本婦人の現状』を語る[記者インタビュー]『婦人倶楽部』7-5、5月1日

ラスクの『判断論』に就いて『文学思想研究』3、6月28日

政治の道徳化か道徳の社会化か[「公人の腐敗と女性」]『婦人之友』20-7、7月1日

エマアスの神秘主義『カアライル・エマアスン』<世界文学大綱 第2>東方出版、7月31日

ミルとカーライル『カアライル・エマアスン』<世界文学大綱 第2>東方出版、7月31日[『吾が非哲学』、『王堂論集』、『最高芸術の大星小星』収録]

1927(昭和 2)年

近世文明の象徴主義化『婦人之友』21-1、1月1日

家庭教育の会—第三回—[座談会]『婦人之友』21-1、1月1日[11月12日於自由学園。出席者：安部磯雄、吉岡弥生、塚本はま子、帆足理一郎、小原国芳、三島章道、田中芳子、福島貞子、長谷川如是閑、羽仁吉一、羽仁もと子][『真理によって歩む道 羽仁吉一・もと子と語る座談集 上』(婦人之友社、2003年)収録]

象徴主義文化の建設『中央公論』42-2、2月1日[『現代文化の本質』『著作集 4』収録]

[「羽仁もと子論 著作集刊行について諸家の寄せられし奨励の言葉」]『婦人之友』21-7、7月1日

杉森孝次郎氏に与へて氏の機能主義社会の志向と構造と実現の工夫とを論ず『中央公論』42-10、10月1日[「杉森氏の『社会学』に現はれたる思索の特徴を鑑識す」と改題、『現代文化の本質』収録]

1928(昭和 3)年

機械の人道化を論ず『中央公論』43-1、1月1日[『現代文化の本質』、『王堂選集 第1冊 徹底個人主義』、『著作集 1』収録]

福沢諭吉『岩波講座世界思潮 第五冊』岩波書店、7月31日

[「なみだの谷をすぐれども」]『婦人之友』22-10、10月1日

1929(昭和 4)年

『現代文化の本質』の著者として[「著者の言葉」]『人生創造』60、5月1日

今に即して生活の第一義を説く『中央公論』44・10、10月1日

1930(昭和 5)年

唯物論批判『理想』16、5月1日[『王堂選集 第1冊 徹底個人主義』収録]

1932(昭和 7)年

田中王堂氏より一学徒へ[「父(又は祖父又は師)より子(又は孫又は弟子)への手紙」]『婦人之友』26・9、9月1日

初出未詳

*不死鳥、掲載紙誌未詳、発表年月日未詳[『解放の信条』、『王堂論集』、平林治徳ほか編『新国文学選』(明治書院、1921年4月)、明治書院編集部編『現代思潮読本 下』(明治書院、1924年5月)収録]

4. 評論集初出

評論集に収録された評論の初出を掲げた。収録時に改題されたものについては、原題を付した。

『書齋より街頭に』 広文堂書店、1911年5月5日

近世文壇に於ける評論の価値	『新小説』14-5、1909年5月1日
公準	『読売新聞』1909年11月21日
哲学の将来	『読売新聞』1910年10月10日
ニイチエのザラツストラを論ず	『新小説』15-9、1910年9月1日
文明史上に於けるロオマンチズムの意義	『哲学雑誌』281、1910年7月10日
東西文明融合の意義及び経過を論ず	『丁酉倫理会倫理講演集』81、1909年6月10日
自由思想家の倫理観	『丁酉倫理会倫理講演集』88、1909年12月10日
道徳経験に於ける情的評価の作用及び制限	『丁酉倫理会倫理講演集』93、1910年5月10日
夏目漱石氏の『文芸の哲学的基礎』を評す	『明星』2、3、1911年2月1日、3月1日
生活の価値、生活の意義	『新小説』14-12、1909年12月1日
セオドル・ルウスヴェルト氏の道徳観及び政治観を論ず	『中央公論』25-12、1910年12月1日
青年諸子の為めに理想の意義を講ず	『青年評論』1908年7月
矛盾せる教育思想	『帝国教育』331、1910年2月10日

『哲人主義』 広文堂書店、1912年4月5日

現代生活の意義	自己開放の事業の実現された時代『新潮』15-3、1911年9月1日
故教授ウキリアム・ジエームス氏を追憶す	『読売新聞』1911年2月26日
印象主義より象徴主義へ	『読売新聞』1911年6月18日
岩野泡鳴氏の人生観及び芸術観を論ず	『中央公論』24-9、1909年8月1日
文芸の小化	『東洋時論』2-7、1911年7月1日
宗教に対する予の態度	『文章世界』4-11、1909年8月15日
時代精神とは何ぞや	『丁酉倫理会倫理講演集』5、1900年12月10日
わが修養論	『丁酉倫理会倫理講演集』109、1911年9月10日
反省の経過を論ず	『新文芸』4、1910年5月
トルストイの絶対主義を論ず	『丁酉倫理会倫理講演集』106、1911年6月10日
実験理想主義は如何に現代の道徳を理解するか	具体的理想主義は如何に現代の道徳を理解するか『文章世界』4-1、1909年1月15日
ジヨージ・サンタヤナとアーサー・シモンズ	『読売新聞』1910年7月22日
島村抱月氏の自然主義を論ず	我国に於ける自然主義を論ず(『明星』申歳8、1908年8月)抄
国民性の意義と価値とを誤解する勿れ	『東亜之光』5-4、1910年4月1日
学者の本領を論ず	『中央公論』19-3、1904年4月1日
教育的理想として『ロオマンチズム』及び『クラシズム』を論ず	『教育学術界』2-3~5、1月1日、2月3日、3月3日
近世思想とフリードリッヒ・リストの経済学説	『読売新聞』1910年7月31日

『吾が非哲学』 敬文館、1913年12月25日

新しき決心	書き下ろし
<i>Θεωρία</i>	
近世に於けるロオマンチズムと実利との依存	
ミルとカーライル	
功利の人、基督	『哲学雑誌』320、1913年10月10日[転載]
吾が社会の最大欠陥	
評論家としての福沢諭吉	『中央公論』28-12、1913年10月1日
象徴主義の生活	

『解放の信条』 栄文館書店、1914年1月13日

人生批評の二種類	『読売新聞』1912年5月26日
----------	------------------

プラグマティズムの後	『哲学雑誌』300、1912年2月10日
新生活即新信仰	『国家及国家学』1-10、1913年10月1日
象徴主義の心理、論理、及び倫理、序説	『哲学雑誌』251、1908年1月10日
知識と信仰	『丁酉倫理会倫理講演集』134、1913年10月10日
人格養成の方便として実業教育の意義を論ず	『東京専門学校文学教育科第一回第一学年講義録雑録及雑報』早稲田大学出版部、1903年
New philosophic Radicalism	『中央公論』25-9、1910年9月1日
当来の文芸	主張を拡充せよ「当来の文芸」『国民新聞』1911年8月12、13日
我が国民性の立場よりクラツシズムの意義を論ず	『新小説』13-9、10、1908年9月1日、10月1日
不死鳥	

『王堂論集』新潮社、1915年3月18日

哲学の将来	『読売新聞』1910年10月10日
故教授ウキリアム・ジエームス氏を追憶す	『読売新聞』1911年2月26日
ヒューマニスト二宮尊徳	
文芸の小化	『東洋時論』2-7、1911年7月1日
ニーチェの『ザラツストラ』を論ず	『新小説』15-9、1910年9月1日
功利の人、基督	『哲学雑誌』320、1913年10月10日
象徴主義の生活	
青年諸氏の為めに理想の意義を論ず	『青年評論』1908年7月
プラグマティズムの後	『哲学雑誌』300、1912年2月10日
ミルとカーライル	
新生活即新信仰	『国家及国家学』1-10、1913年10月1日
不死鳥	

『改造の試み』新潮社、1915年10月24日

文芸家諸氏のために科学の意義を論ず	『早稲田文学』106、1914年9月1日
権威の進化	『丁酉倫理会倫理講演集』147、1914年11月10日
功利の貯蔵としてのロオマンズ	『中央公論』30-4、1915年4月1日
自己超越主義の不合理	『新潮』23-1、1915年7月1日
芸術の真	『中央公論』23-6、1908年6月1日
平塚らいてふ氏に与へて氏の婦人観を論ず	『中央公論』30-8、1915年7月15日
不徹底の一徴候	『廿世紀』2-9、1915年9月1日
パスペクチヴなき学風	『早稲田文学』111、1915年2月1日
予が帝国主義の主張	予が国民主義の主張『中央公論』30-6、1915年6月1日
信仰の合理性	『新日本』4-5、1914年5月1日
文芸家と政治運動	『中央公論』30-3、1915年3月1日
タゴール流行に就ての一観察	『時事新報』1915年4月22～24日

『卿等のために代言す』広文堂書店、1917年6月15日

解放者、ウキリアム・ジエームス	『早稲田文学』118、1915年9月1日
罪の倫理	『新日本』7-1、1917年1月1日
タゴール氏に与へて氏の日本観を論ず	『中央公論』31-1、1916年7月1日
文明の将来	将来の文明『日本評論』18、1916年10月1日
政治意識の深化、醇化	『新公論』31-12、1916年12月1日
衝動と思想	『早稲田文学』132、1916年11月1日
エマソンの現実主義	『三田文学』7-5、1916年5月1日
現代生活に於ける科学の意義を論ず	『新公論』32-1、1917年1月1日
老大事業家等の道德観	『太陽』21-10、1915年8月1日
科学の真と道德の真	『東京』1-4、1917年4月
スチンソン嬢へ	米国の女流飛行家 スチムソン嬢へー日本の哲学者より『時事新報』1917年1月1～3、5日

『徹底個人主義』天祐社、1918年9月28日

徹底個人主義	徹底個人主義は個人と国家との関係を如何に理会するか『大観』1-2、1918年6月1日
学問の独立の意義と範圍と順序とを論ず	『中央公論』33-1、1918年1月1日
近世生活に於ける知識と智慧	『新日本』7-11、1917年10月1日
欲望の理想化、法律化	『法治国』35、1917年10月10日
自然生活に対する憧憬の心理、倫理	『中央公論』32-8、1917年7月15日
代表と卓越	『新公論』32-5、1917年5月1日
工業教育の自由化	我日本をして産業国たらしめる第一歩『中央公論』32-12、1917年11月1日
民主主義と個人主義	『文章世界』13-4、1918年4月1日
省察	省察二三『早稲田文学』139、1917年6月1日

『国民哲学の建設』天祐社、1919年8月2日

国民哲学の建設	
わが評論界はたゞ一事を欠く	『中外』2-10、1918年10月1日
ヒューマンストの科学観	『雄弁』10-7、1919年6月1日
哲人主義の意義に就いて	『大観』2-4、1919年4月1日
解放の意義を論ず	
デモクラシイと芸術	『早稲田文学』162、1919年5月1日
徹底個人主義者の東西文明融合観	『中外』3-1、1919年1月1日
秘密の倫理	『中央公論』33-8、1918年7月15日
将来の文明の基調	
わが文明の弱点は何か	
神秘主義の心理倫理	『大観』2-6、1919年6月1日

『最高芸術の大星小星』天祐社、1920年10月25日

ベルトランド・ラッセルの衝動論、信仰論	『東洋経済新報』898~900、1920年5月29日、6月5、12日
功利の人、基督	『哲学雑誌』320、1913年10月10日
解放者、ウキリアム・ジエムス	『早稲田文学』118、1915年9月1日
芸術批評家ウォルター・ペエタア	
二宮尊徳の人生観	
評論家としての福沢諭吉	『中央公論』28-10、1913年10月1日
文明史論家ジョージ・サンタヤナ	
ニーチェの『ザラツストラ』を論ず	『新小説』15-9、1910年9月1日
トルストイの絶対主義を論ず	『丁酉倫理会倫理講演集』106、1911年6月10日
ミルとカーライル	
エマソンの現実主義	『三田文学』7-5、1916年5月1日
岩野泡鳴氏の人生観及び芸術観を論ず	『中央公論』24-9、1909年9月1日
タゴール氏に与へて氏の日本観を論ず	『中央公論』31-1、1916年7月1日
スチンソン嬢へ	米国の女流飛行家 スチムソン嬢へー日本の哲学者より『時事新報』1917年1月1~3、5日
ジョージ・サンタヤナとアーサー・シモンズ	『読売新聞』1910年7月22日

『創造と享楽』天祐社、1921年12月18日

享楽主義の倫理	『解放』2-9、1920年9月1日
生活の芸術化	『婦人之友』15-1、1921年1月1日
刻下の世運に対する哲学の使命	『中央公論』35-12、1920年11月1日
デモクラシイの極致としての人才主義	『野依雑誌』1-4、1921年8月1日
徹底個人主義者の社会生活観	『中央公論』35-8、1920年7月1日
享楽と創造と所有	『中外』4-2、1921年8月1日
ジョン・デユウエイの哲学	『改造』3-7、1921年7月1日
芸術の哲学者ジョージ・サンタヤナ	
女学生の間における好奇心の選択と醇化	『婦人之友』15-6、1921年6月1日
考へる人と見る人	『東方時論』6-9、1921年9月1日

一人道主義者の社会改造観	
宗教の発生的、作用的考察	『大観』4-1、1921年1月1日

『教は反省より』実業之日本社、1923年2月10日

現下に於ける神話化の源流を究明す	『中央公論』36-13、1921年12月1日
現下流行の宗教文学に鑑みて信仰隆興の機縁と志向と意義とを論ず	『中央公論』37-6、1922年6月1日
諸家の文化主義を検討す	世界平和の理想に因みて諸家の文化主義を検討す『中央公論』37-8、9、1922年7月15日、8月1日
徹底個人主義者の恋愛観結婚観	『中央公論』37-4、1922年4月1日

『象徴主義の文化へ』博文館、1924年12月10日

象徴主義の文化へ	
一自由思想家の生活信条	『中央公論』39-4、1924年4月1日
知識の時代相、永遠性	『中央公論』38-7、1923年6月15日
科学の道德化、生活化	『中央公論』38-1、1923年1月1日
現代批判の原理としての哲人主義	『中央公論』38-10、1923年9月1日
生活原理の極致としての合議主義	『中央公論』38-13、1923年12月1日
卓越性の創造と鑑識とを論ず	『中央公論』38-4、1923年4月1日
わが同胞のために転禍為福の根本策を唱説す	『中央公論』39-1、1924年1月1日

『改訳の哲学』聚芳閣、1925年5月20日

遙かにタゴオル氏に寄せて亜細亜同盟の思想を論ず	『中央公論』39-11、1924年11月1日
当来文明の基調たるべき改訳の精神を究明す	『中央公論』40-2、1925年2月1日
デモクラシーの極致としての哲人主義	『文芸哲学講座 第1輯』小西書店、1923年2月25日
ロオマンズ時代に於ける恋愛の意義と帰趨	『婦人公論』7-11、1922年10月1日
分離主義によりて支配せらるゝわが国の国民教育	
某大学を卒業する一女性に与へてカルチュアを論ずるの書	『婦人公論』10-5、1925年5月1日
新生といふことの意義に就て	『婦人画報』196、1922年4月1日
『超克』を讀みて	『東京朝日新聞』1924年5月27、28日
若き女性の為めに覚醒の意義を講ず	『婦人公論』8-6、1923年6月1日
若き女性のために研学の精神と態度とを構ず	『婦人公論』9-7、1924年7月1日

『現代文化の本質』東洋経済新報社出版部、1929年2月8日

衝動と思想	『早稲田文学』132、1916年11月1日
近世生活に於ける知識と智慧	『新日本』7-11、1917年10月1日
現下に於ける神話化の源流を究明す	『中央公論』36-13、1921年12月1日
徹底個人主義者の東西文明融合観	『中外』3-1、1919年1月1日
權威の進化	『丁酉倫理会倫理講演集』147、1914年11月10日
代表と卓越	『新公論』32-5、1917年5月1日
デモクラシーの極致としての哲人主義	『文芸哲学講座 第1輯』小西書店、1923年2月25日
功利の貯蔵としてのロオマンズ	『中央公論』30-4、1915年4月1日
徹底個人主義者の恋愛観結婚観	『中央公論』37-4、1922年4月1日
現代生活の内容と様式	
ヒューマンストの科学観	『雄弁』10-7、1919年6月1日
機械の人道化を論ず	『中央公論』43-1、1928年1月1日
享楽主義の倫理	『解放』2-9、1920年9月1日
一文明史家としてわが国に於けるジャナリズムの特徴と傾向とを論ず	『中央公論』40-10、1925年9月1日

象徴主義文化の建設	『中央公論』42-2、1927年2月1日
杉森氏の『社会学』に現はれたる思索の特徴を鑑識す	杉森孝次郎氏に与へて氏の機能主義社会の志向と構造と実現の工夫とを論ず『中央公論』42-10、1927年10月1日

『王堂選集 第1冊 徹底個人主義』関書院、1948年12月1日

不死鳥	
代表と卓越	『新公論』32-5、1917年5月1日
<i>Θεωρία</i>	
バアスペクチヴなき学風	『早稲田文学』111、1915年2月1日
省察	省察二三『早稲田文学』139、1917年6月1日
公準	『読売新聞』1909年11月21日
哲学の将来	『読売新聞』1910年10月10日
象徴主義の生活	
唯物論批判	『理想』16、1930年5月1日
科学の真と道徳の真	『東京』1-4、1917年4月
ヒューマンストの科学観	『雄弁』10-7、1919年6月1日
機械の人道化を論ず	『中央公論』43-1、1928年1月1日
衝動と思想	『早稲田文学』132、1916年11月1日
近世生活に於ける知識と智慧	『新日本』7-11、1917年10月1日
徹底個人主義	徹底個人主義は個人と国家との関係を如何に理会するか『大観』1-2、1918年6月1日

『王堂選集 第4冊 西哲群像』関書院、1949年3月10日[『最高芸術の大星小星』から10篇を編集]

功利の人基督	『哲学雑誌』320、1913年10月10日
ニーチェのツアラストラを論ず	『新小説』15-9、1910年9月1日
芸術批評家ウオルター・ペエタア	
トルストイの絶対主義を論ず	『丁西倫理会倫理講演集』106、1911年6月10日
ミルとカーライル	
エマソンの現実主義	『三田文学』7-5、1916年5月1日
解放者、ウィリアム・ジエームス	『早稲田文学』118、1915年9月1日
文明史論家ジョルジ・サンタヤナ	
ジョルジ・サンタヤナとアーサー・シモンズ	『読売新聞』1910年7月22日
バートランド・ラッセルの衝動論、信仰論	『東洋経済新報』898~900、1920年5月29日、6月5、12日

『田中王堂著作集 第1巻 哲学・倫理・科学は何のために』学術出版会、2010年11月25日

哲学の将来	『読売新聞』1910年10月10日
プラグマティズムの後	『哲学雑誌』300、1912年2月10日
New philosophic Radicalism	『中央公論』25-9、1910年9月1日
国民哲学の建設	初出未詳、底本は『国民哲学の建設』
刻下の世運に対する哲学の使命	『中央公論』35-12、1920年11月1日
西田博士の哲学思索の特徴と価値とを論ず	『中外』2-4、1918年4月1日
更に西田博士の学説の本体に肉薄す	『中外』2-7、1918年6月1日
新しき決心	『吾が非哲学』(敬文館、1913年12月25日)
<i>Θεωρία</i>	初出未詳、底本は『吾が非哲学』
近世に於けるロオマンズと実利との依存	初出未詳、底本は『吾が非哲学』
功利の貯蔵としてのロオマンズ	『中央公論』30-4、1915年4月1日
自由思想家の倫理観	『丁西倫理会倫理講演集』88、1909年12月10日
道徳経験に於ける情的評価の作用及び制限	『丁西倫理会倫理講演集』93、1910年5月10日
青年諸子の為めに理想の意義を講ず	『青年評論』1908年7月
実験理想主義は如何に現代の道徳を理解するか	具体的理想主義は如何に現代の道徳を理解するか『文章世界』4-1、1909年1月15日
不死鳥	初出未詳、底本は『解放の信条』
現代生活に於ける科学の意義を論ず	『新公論』32-1、1917年1月1日
科学の真と道徳の真	『東京』1-4、1917年4月
ヒューマンストの科学観	『雄弁』10-7、1919年6月1日

科学の道徳化、生活化	『中央公論』38-1、1923年1月1日
機械の人道化を論ず	『中央公論』43-1、1928年1月1日

『田中王堂著作集 第2巻 生活と知識・学問』学術出版会、2010年11月25日

現代生活の意義	自己開放の事業の実現された時代『新潮』15-3、1911年9月1日
象徴主義の生活	初出未詳、底本は『吾が非哲学』
現代生活の内容と様式	初出未詳、底本は『現代文化の本質』
人生批評の二種類	『読売新聞』1912年5月26日
享楽主義の倫理	『解放』2-9、1920年9月1日
一自由思想家の生活信条	『中央公論』39-4、1924年4月1日
知識の時代相、永遠性	『中央公論』38-7、1923年6月15日
近世生活に於ける知識と智慧	『新日本』7-11、1917年10月1日
学問の独立の意義と範囲と順序とを論ず	『中央公論』33-1、1918年1月1日
バアスペクチヴなき学風	『早稲田文学』111、1915年2月1日
学者の本領を論ず	『中央公論』19-3、1904年4月1日

『田中王堂著作集 第3巻 個人こそ社会・政治の原点』学術出版会、2010年11月25日

徹底個人主義	徹底個人主義は個人と国家との関係を如何に理會するか『大観』1-2、1918年6月1日
代表と卓越	『新公論』32-5、1917年5月1日
民主主義と個人主義	『文章世界』13-4、1918年4月1日
哲人主義序	『哲人主義』(弘文堂、1912年)
わが評論界はたゞ一事を欠く	『中外』2-10、1918年10月1日
哲人主義の意義に就いて	『大観』2-4、1919年4月1日
デモクラシーの極致としての哲人主義	『文芸哲学講座 第1輯』(小西書店、1923年)
現代批判の原理としての哲人主義	『中央公論』38-10、1923年9月1日
生活原理の極致としての合議主義	『中央公論』38-13、1923年12月1日
徹底個人主義者の東西文明融合観	『中外』3-1、1919年1月1日
徹底個人主義者の恋愛観・結婚観	『中央公論』37-4、1922年4月1日
徹底個人主義者の社会生活観	『中央公論』35-8、1920年7月1日
政治意識の深化、醇化	『新公論』31-12、1916年12月1日
予が帝国主義の主張	予が国民主義の主張『中央公論』30-6、1915年6月1日
若き女性のために研学の精神と態度とを構ず	『婦人公論』9-7、1924年7月1日

『田中王堂著作集 第4巻 文明の進歩、社会の改造』学術出版会、2010年11月25日

文明の将来	将来の文明『日本評論』18、1916年10月1日
わが文明の弱点は何か	初出未詳、底本は『国民哲学の建設』
当来文明の基調たるべき改軀の精神を究明す	『中央公論』40-2、1925年2月1日
時代精神とは何ぞや	『丁西倫理會倫理講演集』5、1900年12月10日
国民性の意義と価値とを誤解する勿れ	『東亜之光』5-4、1910年4月1日
文明史上に於けるロオマンチズムの意義	『哲学雑誌』281、1910年7月10日
我が国民性の立場よりクラッシズムの意義を論ず	『新小説』13-9、10、1908年9月1日、10月1日
吾が社会の最大欠陥	初出未詳、底本は『吾が非哲学』
一人道主義者の社会改造観	初出未詳、底本は『創造と享楽』
わが同胞のために転禍為福の根本策を唱説す	『中央公論』39-1、1924年1月1日
象徴主義の文化へ	『象徴主義の文化へ』(博文館、1924年)
象徴主義文化の建設	『中央公論』42-2、1927年2月1日

『田中王堂著作集 第5巻 文芸の目標』学術出版会、2010年11月25日

近世文壇に於ける評論の価値	『新小説』14-5、1909年5月1日
---------------	---------------------

公準	『読売新聞』1909年11月21日
生活の価値生活の意義	『新小説』14-12、1909年12月1日
文芸の小化	『東洋時論』2-7、1911年7月1日
当来の文芸	主張を拡充せよ[「当来の文芸」]『国民新聞』1911年8月12、13日
象徴主義の心理、論理、及び倫理、序説	『哲学雑誌』251、1908年1月10日
文芸家諸氏のために科学の意義を論ず	『早稲田文学』106、1914年9月1日
芸術の真	『中央公論』23-6、1908年6月1日
衝動と思想	『早稲田文学』132、1916年11月1日
夏目漱石氏の『文芸の哲学的基礎』を評す	『明星』2、3、1911年2月1日、3月1日
島村抱月氏の自然主義を論ず	我国に於ける自然主義を論ず(『明星』申歳8、1908年8月)抄

『田中王堂著作集 第6巻 宗教の存在価値、文化主義の問題点』学術出版会、2010年11月25日

宗教に対する予の態度	『文章世界』4-11、1909年8月15日
知識と信仰	『丁酉倫理会倫理講演集』134、1913年10月10日
新生活即新信仰	『国家及国家学』1-10、1913年10月1日
信仰の合理性	『新日本』4-5、1914年5月1日
神秘主義の心理倫理	『大観』2-6、1919年6月1日
宗教の発生的、作用的考察	『大観』4-1、1921年1月1日
現下に於ける神話化の源流を究明す	『中央公論』36-13、1921年12月1日
現下流行の宗教文学に鑑みて信仰隆興の機縁と志向と意義とを論ず	『中央公論』37-6、1922年6月1日
諸家の文化主義を検討す	世界平和の理想に因みて諸家の文化主義を検討す『中央公論』37-8、9、1922年7月15日、8月1日